

パラオだより

第16号

「金つぎ」体験教室

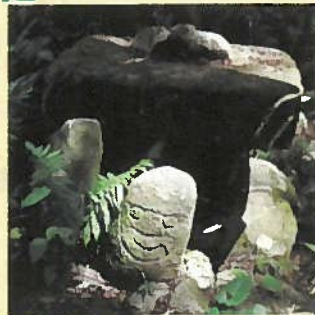


パラオでは物を大事にしない子どもが本当に多いです。ゴミ箱の中には、少し使っただけの鉛筆やノートの切れ端が大量にあります。この状況を少しでも良くするために、学校で「金つぎ」体験教室を開催し、昔の日本人が大切にしてきた「もったいない」精神を教えることにしました。子ども達はかなり上手に、割れた皿を修復していました。この授業を通して、物を大事にする心が少しでも育っていたら嬉しいです。

地域と文化

遺跡探検

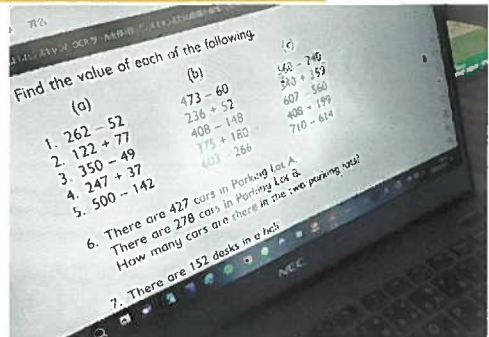
小さな島国ですが、ジャングルの奥には、パラオ人の祖先たちの遺跡がたくさん眠っています。最近、筒井先生は土日を使って、これらを自分の目で実際に見に行くことが多いです。右の写真は、ガラスマオ州の森の奥にあった顔の描かれた石です。その後ろにある石の台は儀式のために使われていました。



左の写真は、ガラード州の森の奥にあった、あるパラオの伝説の物語を記した岩です。かなり残こくな話なのでここには書けません、パラオ人にとってはとても大切な岩です。このような遺跡は私有地にあることも多く、自分の目で見るためには、パラオ人の知り合いを増やしていくしか方法はありません。3月までにあといくつ見つけられるでしょうか。

毎日算数補習教室

2学期に入ってから、毎日30分間の算数の補習授業をしています。3、4年生の、特に算数が苦手な女子を一人ずつ、合計2人の子どもを教えています。1年生の教科書の1ページ目からさかのぼり、わからないところを完璧になるまで教えています。



二人とも、くり下がりの引き算でつまづいていることがわかりました。最初は2人ともこの補習教室を嫌がっていましたが、問題が解けるようになると、この時間を楽しみにしてくれるようになりました。パラオの子ども達にとっても「できる・わかる」が増えると算数は楽しいようです。

パラオの伝説紹介

パラオにはたくさんの伝説の物語がありますが、全学校にマンガで置かれている右の写真の物語がとくに有名です。「悪いバッタと良いバッタ」と呼ばれるこの物語は、2人の戦士が主人公です。片方の戦士は村の老人の話をよく聞いていたので、戦争で生きて帰ってこれましたが、もう片方の戦士は聞かなかったので死んでしまったという物語です。年上の方の話はよく聞いた方が良いという教訓が込められているために、学校に置かれているわけです。このように、パラオの伝説の物語には、それぞれに何らかの教訓が込められていることが多いです。昔のパラオの子ども達は、これらの物語から色々なことを学んだのでしょね。

